

会 議 記 録 (概 要)

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和6年度第1回高松市総合都市交通計画推進協議会
開催日時	令和6年5月2日(木) 10時～10時40分
開催場所	高松市役所13階 大会議室
議題	議事 (1) 令和5年度取組結果及び令和6年度予定事業 (2) 高松市総合都市交通計画の改定について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	土井会長、四之宮委員(代理:新居)、斎藤委員、木村委員、川崎委員、九十九委員、古川委員、土井委員、上枝委員、多田委員、古川委員、木村委員(代理:谷岡)、菊池委員、十川委員(代理:小野)、仲西委員、板東委員、大西委員、形部委員、佐野委員 オブザーバー:谷藤課長、奥村課長 (欠席者:紀伊副会長、藤本委員、石川委員3名)
傍聴者	5人(傍聴席:10席を確保)、報道3人
担当課及び連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果

<p>開会 (事務局)</p> <p>本日は、オンラインと会場を併用し開催した。委員の半数以上が出席しているため、当協議会設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立する。</p> <p>1 議事</p> <p>次の議事について協議し、下記の結果となった。</p> <p>(1) 令和5年度取組結果及び令和6年度予定事業 ・・・事務局から説明(資料1、2、3、4)</p> <p>以後審議 (会長)</p> <p>令和5年度取組結果及び令和6年度予定事業について何かご質問、ご意見はあるか。</p>

(委員)

ことでんバスは、特別支援臨時交付金を活用し、様々な取り組みを行っているが、運転手不足、2024年問題等を踏まえ、この4月1日に減便し、お客様方にはご迷惑をおかけしている。

そのような状況の中、運転手の確保に向け、バスの運転手の仕事を身近に感じていただくため、5月12日に、高松自動車学校で運転手の体験会を実施する。現在、12名の募集のところ、7名の応募があり。年齢層としては20代から50代と幅広い年代の方に応募いただいている。このような取り組みを行い、運転手の確保、また今後の路線再編に繋げ、より良い交通ネットワークを構築してまいりたい。

(会長)

それに関連して、高松タクシー協会の方では何か取り組みはあるか。

(委員)

高松タクシー協会からも各タクシー事業者に対して、今回いただいた支援金の経緯、また支援を通じて雇用につながるようにと周知を行った。その結果であるが、今年の1月から3月の3か月で、高松市内の法人に関しては退職者が17名、それに対して採用者が37名と、3ヶ月で20名の運転手の増員が図ることができた。これは特別支援金をいただいた高松市、また、それに伴って各事業者がしっかり意識して雇用に対する取り組みを強化してきた結果だと捉えている。現在も各社、好調に採用に繋げており、取り組みとしては、求人媒体への掲載だけでなく、運転手未経験の人に対しての求人・雇用についても各社が創意工夫をしている。また、昨年3月に15パーセント増の運賃改定をしているが、それ以上に運転手の賃金増加も見込んでいる。運転手の待遇面、雇用環境の改善をPRし、さらに雇用の改善に努めていきたい。

(会長)

待遇面の改善によって20名が増えたというのは素晴らしい結果で、喜ばしいことである。ライドシェアが解禁され、それに対して全国的に安全面の不安などが言われている中、今取り組んでいるバタクスが、従来のタクシーとライドシェアの間の非常に重要なステップとなってくる。今後、高松で生まれたバタクスを全国に広げていくことが期待される。今回の資料の中でも、需要のバラつきと変動に見事に対応出来ているので、着実に成果を出していることと認識した。

バタクスに関して、事務局の方で見えてきた課題、特に解決すべき課題はあるか。

(事務局)

現在、バタクスをタクシー事業者の方に運行していただいている中で、一番の課題は運転手不足であると認識している。タクシー協会と協議し、その課題を改善するために、今回、特別支援をした。今後のバタクスの定着のためには運転手不足の問題をクリアすることが必要である。

(会長)

運転手を確保することが課題であると理解した。それを踏まえて、自動運転等のことも視野に入れながら進めていく必要があると考える。

JR四国の方でご報告いただけることはあるか。

(委員)

昨年度の弊社の利用状況は、昨年5月に、コロナが5類に移行したことで、利用者状況はコロナ禍前の90パーセント弱程度にまでは回復している。また、昨年5月に運賃改定をし、その効果で、コロナ禍前の95パーセント程度に収入の方も回復している。また、3月22日に高松駅に

高松オルネが開業し、開業から1か月間のご利用者数が97万人と、非常に多くの方にご利用をいただいている。また、駅ビルの効果もあり、特に香川県内、近距離の鉄道の利用者の方も、増加しており、他の3県に比べ、香川県内の3月のご利用が非常に好調であった。今後も駅の賑わいづくり等にご協力いただきたい。

(会 長)

香川県の交通政策課は何かあるか。

(委 員)

議題から離れることとなるが、香川県としては四国新幹線の早期実現を目指している。そのためには一般の方に効果をより分かっていただく必要がある。今回、リーフレットを作成したので内容を紹介させていただきたい。

・リーフレット内容説明

四国の新幹線実現に向けて様々な取り組みをし、皆様ご協力をいただいている。県として、四国の新幹線がもたらす効果のうち、観光や産業面での広域的な人流を四国に呼び込むことこそが最大のメリットであると考え、そういったメリットを一般の方に分かりやすく伝えるためにリーフレットを昨年度作成させていただいた。皆様に周知、ご協力をいただきたいということを趣旨にご説明させていただきたい。

四国では、すでに新幹線規格として整備されている瀬戸大橋を有効活用する観点からも、瀬戸大橋を経由して四国内の県庁所在地を結ぶルート of 早期実現を目指している。実現すれば、大阪まで75分、東京都まではリニアとの接続で2時間半程度に移動の時間が短縮になるとされる見込みである。これにより、高松駅から3時間で到達できる地域が人口ベースで約1.5倍になる。

四国内の交流についても、四国新幹線の実現により、大幅な時間短縮が期待でき、90分で到達できる地域は高松駅から四国内だけで人口ベースで約1.8倍になる。

北陸新幹線、九州新幹線の新幹線開業地域の実績として、石川県、熊本県の例を挙げているが、新幹線の開業により、他地域からの交流人口が増加していることが複数の統計データ上、示されている。県として、四国の新幹線は観光や産業面での広域的な人流を四国に呼び込むために不可欠な基本インフラであり、その効果は既存の各公共交通機関の利用者等にも繋がっていくものではないかと考えている。パンフレットの内容を広くご周知いただき、県民の皆様のご理解促進にご協力いただきたい。

(会 長)

コロナ前の水準に戻すことがよく議論されるが、もう少し長期的な視点で2000年ぐらいからのJR各社の需要が変化について見てみると、新幹線を新たに開通したところは2000年よりも需要が増加している。人口減少の中でも、JR北海道、JR九州は伸びている。新幹線がない四国では、2000年に比べると20パーセントほど利用者が減少している。

また、新しい新幹線の整備が出来ていないJR西日本はほとんど伸びてない。新幹線の有無で地域を維持できるかどうかの明暗が分かれることが数字に出ている。コロナ前に戻すことも1つの短期的な目標としては重要だが、定住人口は減っても、交流人口が増える地域づくりが、ますます重要になる。そういった意味で四国新幹線を実現させていただきたい。

(2) 高松市総合都市交通計画の改定について

議事2については、この後の令和6年度第1回高松市総合都市交通推進協議会にてご説明をさせていただきます。

(3) その他 事務局からの連絡事項

次回協議会は、11月の開催を予定している。なお、具体の日程については、改めて調整させていただきたい。

閉会

以 上